

△葬式の歌 其二

一、凍雪の明けぬ間に
勇敢に戦へる、

二、荆棘の道さふみ、
解衣の光見ず

三、彼奔りし其の日に
額あつめ、膝合はせ、

戦ふ早も起り、
我等が回志は燃る！

牢壁の暗きに生きた
淋しく彼は逝きぬ。

怨も共に忍ぶ、
樂しき夢を見しか。

ナリカヘシ

悲しみの深き日か

結東の其の時か、

怨の聲の七骸は、

怨を呑んで眠る！

△葬式の歌 其三

一、龍井の夜は鬼けす

血潮に飢えし劍は、

民衆の辛、民衆の

富者を憎み權勢に

三、あゝ、嗚はしき軍師の、

赤血に染みたる怨の、

悲鳴は地上に満ちぬ。

彼等が胸を刺しぬ。

光に生きた友よ

必死したる友よ。

麻呂の手に彼は逝きぬ。

死は代々につきど。

ニリカヘシ

銘記せが此の時よ、

殺されし我が友よ

怨は深し復讐討を、

我等は屍を語らふ！！

(終)